

## 変化していく「当たり前」

小牧市立桃陵中学校 3年

頭がその事実を拒否していた。驚きとさみしさと心がいっぱいになって理解するのに時間がかかった。

「来年から仕事で2年間出向に行くかもしれない。」

と父から突然告げられた。それは、約2年の間、仕事のために父は一人で海外へ行くことになるかもしれない、という話だった。これを「出向」というらしい。「出張」なら今まで何度かあった。「2週間海外に行ってくる。」だとか「今日は東京に行ってくるから帰りが遅くなる。」だとかそういう話なら定期的にあった。その度に、父に手紙を書いて渡したりお土産を楽しみにして帰りを待ったものだ。でも、今回の出向は今までとは訳が違う。私たち家族の当たり前が一気に変わろうとしていた。しかし、幸いながらまだ小さな娘のいる父を気づかい職場の方が出向を延期にしてくれた。その方には感謝してもしきれない。

私の弟は、野球にとっても力を入れていて高校は野球の強豪校に行つて寮で暮らしたいと言ってきた。私も自分の進路について考え始めている。海外の学校を選ぶことも視野に入れながら。私たちが自分の道を進むためにいつか家を出ていく日がくることは自然なことだ。今ある当たり前が変化する日もそう遠くはない。そのことを実感させられることが多くなり、それぞれの道を尊重する一方で私は少しさみしさも感じていた。

いつ誰がどこへ去っていくのかなんて誰にも分からない。その時は突然やってくる。そう考えると毎日の価値って実はすごく重いものなのではないかと思えてくる。「当たり前」という言葉はそうであることが当然で自分の中の普通というものに当てはまるときに使われる。つまり裏を返せば、それがなくなつては困るものなのだ。当たり前を失つてからでは遅い。だから人々は「日々の感謝を忘れずに」と言うのだ。今まで当たり前だと思つていたことが当たり前ではなくなる時が必ずやってくることはみんな分かっている。

だからこそ、いつか私たち家族がそれぞれの道を歩み始める時がきても、家族の絆は繋いでいたいと思う。離れたからといって今までのことがすべてなくなるわけではないし、会えなくても大事な存在で困っていたら助け合い、どんな状況でも私たちが家族であることに変わりはない。そう考えると離れ離れになって物理的な距離が遠ざかることはそんなに重要なことではないのかもしれない。大切なのは心の距離だ。

私はこの一件から「当たりの日々」について考えさせられた。思えば私たち人間は今まで当たり前だと思つていたことを次々と壊され続けてきたのではないか。こんなにも私たちを苦しめるとは思わなかったコロナウイルス、もう二度と起こらないと誰もが思つていた戦争、安全な国だと信じ込まれたこの日本での銃による殺害事件、これらを誰が予想できただろうか。大きな事件や災害などが起こると人々は当たりに「人々に感謝を」とよく言うが、それを常日頃胸に刻んでいる人はどれくらいいるだろうか。あなたが生きていくこと、あなたに家族がいること、あなたに大切なものがあること、これら全ては決して当たり前なんかじゃない。このことに気づき、この存在に感謝の気持ちを持ち続けることが当たり前を大切にすることではないだろうか。その感謝の想いはきっと、相手に届くはずだから。

大切な日々を「当たり前」なんて曖昧な言葉でまとめられるはずがない。この考え方が世界に浸透すればすごく素敵だと思う。大好きな父は海外に行くかもしれない。ずっと一緒に過ごしてきた弟も夢を追って家を出ていくかもしれない。私も遠くの高校を選択するかもしれない。当たりの「今」が形を変えたとしてもさみしく思うのではなくお互いのことを変わらず尊重し合えるように、私は感謝の気持ちを忘れない日々を積み重ねたい。